

記者発表（資料配布）				
月／日 (曜日)	事務所名等	電話	発表者 (担当者)	配布先
10/28 (金)	県立農林水産技術総合センター 但馬水産技術センター	0796- 36-0395	所長 望月 松寿 (次長 水田 章)	但馬県民局・ 県政記者クラブ

令和4年漁期 ズワイガニ資源の状況について

但馬水産技術センターでは、11月6日から解禁となる日本海のズワイガニ漁を前に、県漁業調査船「たじま」により漁期前調査を実施しました。

当該調査やその他の情報に基づいて検討した結果、令和4年漁期におけるズワイガニの資源状況は下記のとおりです。

記

1 解禁直後（但馬沖漁場）

- ・解禁直後における但馬沖漁場でのオスがにの推定現存尾数は前年並みでしたが、過去5年平均を上回りました。また、メスがにの推定現存尾数は前年を下回ったものの、過去5年平均並みでした。以上から、解禁直後の但馬沖漁場における漁獲量（1隻当たり）は、オスがにが前年並み、メスがにが前年を下回ると予測されます。ただし、メスがには過去5年平均並みであることから、近年の平均的な漁獲量になると予測されます。

2 漁期全般（浜田沖～丹後沖漁場）

- ・本県沖合底びき網漁船が漁期を通じて利用する浜田沖～丹後沖漁場全体におけるズワイガニ資源量は、オスがに、メスがにとともに前年並みと推定されており、漁獲量についても前年並みとなることが予測されます。

根拠となった情報については別添資料（但馬水産技術センターだより）を参照してください。

問い合わせ先

兵庫県立農林水産技術総合センター但馬水産技術センター

研究員 田村一樹

電話 0796-36-0395



但馬水産技術センターだより



漁況情報（G2238号）

令和4年10月28日
兵庫県立農林水産技術総合センター
但馬水産技術センター 発行

令和4年漁期 ズワイガニ資源の状況について

調査船「たじま」の調査結果などから見た今期のズワイガニ資源の状況について報告します。

1. 推定された資源の状況

解禁直後（但馬沖漁場）

解禁直後における但馬沖漁場でのオスがにの推定現存尾数は前年並みでしたが、過去5か年平均は上回りました。メスがにの推定現存尾数は前年を下回ったものの、過去5か年平均並みでした。

漁期全般（浜田沖～丹後沖漁場）

本県沖合底びき網漁船が漁期を通じて利用する浜田沖～丹後沖漁場全体におけるズワイガニ資源量は、オスがに、メスがにとも前年並みと推定されています。

2. 根拠となった情報

解禁直後（但馬沖漁場）

調査船「たじま」によるズワイガニ漁期前調査（調査月：10月）

調査船「たじま」により、2022年10月3～4、14、17、19日に香住沖の水深200～350mおよび津居山沖、浜坂沖の水深235～245mに設けた計14定点（図1）においてトロール網（3ノット、30分曳き）による試験操業を実施しました。

オスがにには、香住沖の水深245m、津居山沖の水深240mでまとまった入網があり（表1）、入網結果から推定された但馬沖漁場における推定現存尾数は9.1万尾で、前年比105.8%、過去5か年平均比は178.4%となりました（表2）。

メスがにには、香住沖の水深245mでまとまった入網があり（表1）、入網結果から推定された但馬沖漁場における推定現存尾数は13.5万尾で、前年比37.8%、過去5年平均比94.3%となりました（表2）。

なお、前年度及び今年度調査で入網したズワイガニの甲幅組成は図2のとおりです。

漁期全般（浜田沖～丹後沖漁場）

水産研究・教育機構 水産資源研究センター底魚資源部調査（調査月：5～6月）

水産研究・教育機構 水産資源研究センター底魚資源部は、A海域（富山県以西）における2022年漁期当初の資源量をオスがに、メスがにとも前年並みと推定しています（図3）。また、11齢期に相当する小型のミズがには多いと推定されており、当センターの調査でも香住沖の水深200mで多くの入網がありました。

3. その他の情報

- 香住沖の水深 200mにおいてミズがにが、津居山沖の水深 240 及び 245mにおいてアカコが多く入網しました。また、水産研究・教育機構による調査でもミズがに及びアカコが多いと推定されており、他の漁場でも多く入網する可能性があります。11 月は再放流後の生残率が低いため（山崎ら 2011、2013）、それらが多く混獲される海域で操業する場合、迅速な再放流に努めてください。（次漁期には、ミズがにが大型のミズがにもしくはオスがにとして、アカコがクロコとして漁獲可能となります。）
- 2024 年以降に漁獲対象となる 10 齢以下の若齢個体は、過去 5 年と比較すると多く推定されています。若齢がにも 11 月における再放流後の生残率が低いため、それらが多く混獲される海域での操業は控えてください。
- アカガレイの全水深帯平均の入網重量は 27.2kg と前年、過去 5 年平均を上回りました（表 2）。
- 大型クラゲの入網は少量でしたが、引き続き入網にはご注意ください（表 2）。

以上、解禁初日の漁場選択の参考にしてください。

お問い合わせ先：兵庫県立農林水産技術総合センター 但馬水産技術センター（担当：田村・大谷）

TEL：0796-36-0395 FAX：0796-36-3684

E-mail：nourinc_tajima@pref.hyogo.lg.jp

HP：<http://hyogo-suigi.jp/tajima/>

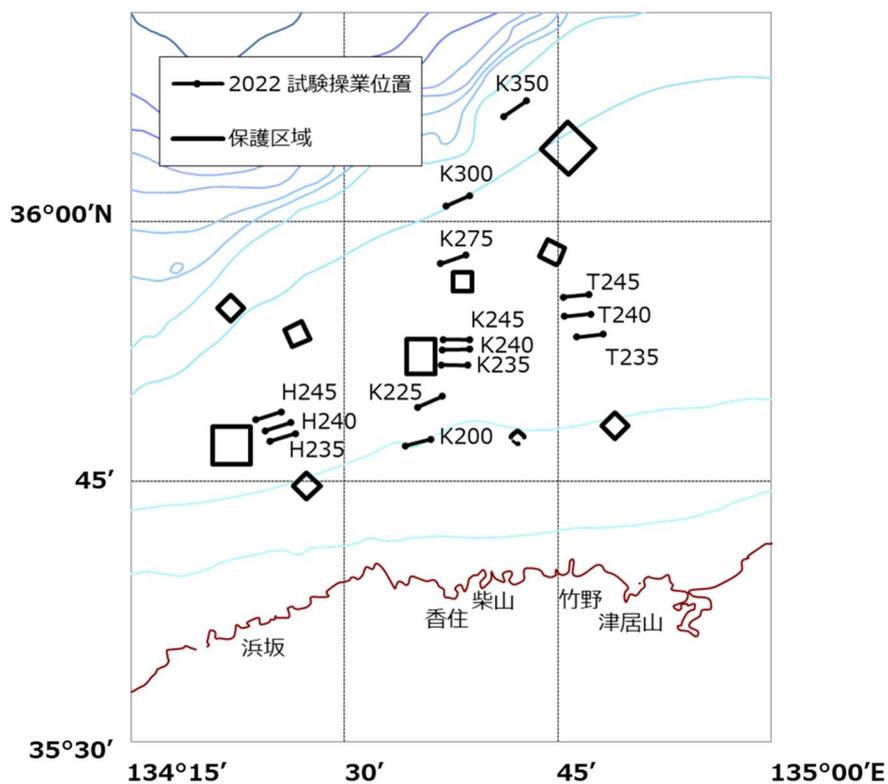


図 1 但馬沖調査海域図

表 1 漁場別のズワイガニ等入網状況

漁場	年月日	操業地点	曳網水深 (m)	ズワイガニ 入網数 (尾/網)			アカガレイ 入網重量 (kg/網)	大型クラゲ 入網重量 (kg/網)
				オスガに*1	ミスガに*2	メスガに*3		
津居山・ 竹野沖	2022/10/19	T245	246	6	10	0	8.5	0.0
	2022/10/19	T240	240	22	22	62	8.5	0.0
	2022/10/19	T235	235 → 234	0	19	2	4.1	0.0
香住沖	2022/10/4	K350	346 → 347	2	3	0	1.1	0.0
	"	K300	302 → 303	0	3	0	8.1	0.0
	"	K275	277 → 276	13	2	0	117.1	0.0
	2022/10/3	K245	248 → 243	30	2	148	34.8	0.0
	"	K240	245 → 239	7	3	46	6.5	0.0
	"	K235	239 → 231	4	1	2	12.4	0.0
	"	K225	224	7	2	0	27.0	0.0
"	K200	200 → 199	1	109	0	0.0	9.9	
浜坂沖	2022/10/14	H245	246	7	0	51	0.8	6.7
	2022/10/17	H240	240	1	1	73	2.4	0.0
	2022/10/17	H235	235 → 236	8	9	10	10.9	0.0

* 1 : かがたがに (12 齢以上 (甲幅 94mm 以上) 、硬甲、ハサミ大)

* 2 : 11 齢 (甲幅 72~93.9mm) でハサミが小さく、脱皮前の個体
および 12 齢以上 (甲幅 94mm 以上) でかがたがに以外の個体

* 3 : 漁期中にクロコになる個体

表2 調査海域におけるズワイガニの推定現存尾数（単位：万尾）

	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年	前年比	過去5年 平均	過去5年 平均比
オスガに	5.2	4.3	2.7	4.7	8.6	9.1	105.8%	5.1	178.4%
ミスガに	15.9	28.1	8.6	23.8	34.8	26.8	77.0%	22.2	120.5%
メスガに	12.4	8.8	5.9	8.8	35.7	13.5	37.8%	14.3	94.3%

※採集効率は1.0とし、東経134°20'～134°50'（居組～津居山間）で水深190～360mの範囲における推定現存尾数

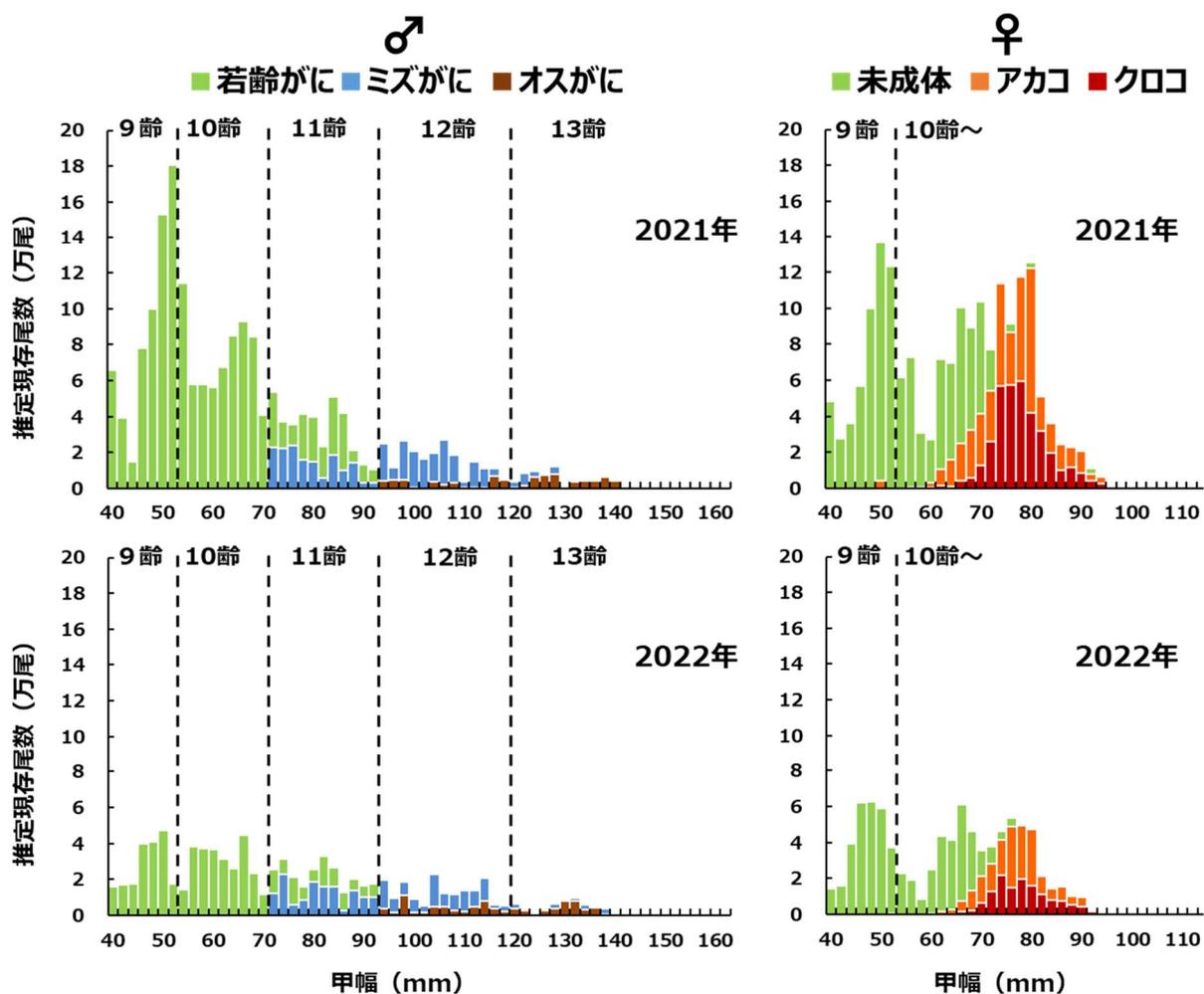


図2 2021、2022年のズワイガニ漁期前調査結果から得られたズワイガニの甲幅組成（10月、但馬沖漁場）

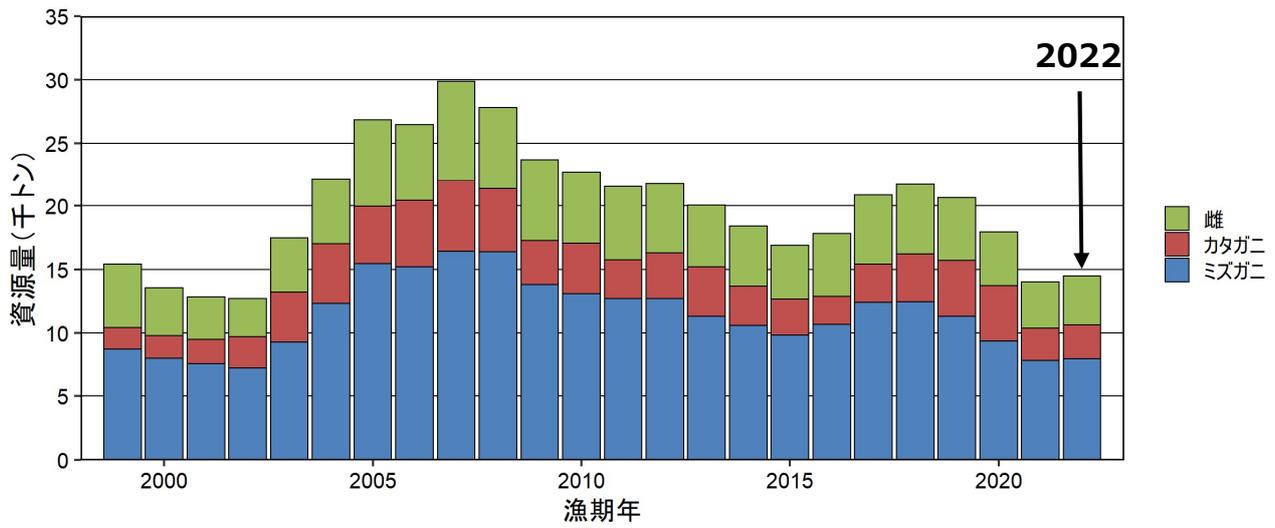


図3 日本海A海域(富山県以西)における推定漁獲対象資源量
(水産研究・教育機構 水産資源研究センター底魚資源部 作成資料より)